

2025 年度

昭和医科大学臨床研修薬剤師

目標と評価

*PGY 2*



臨床研修薬剤師氏名：

2025 年 4 月 1 日  
昭和医科大学 統括薬剤部  
剤部

# 目次

<b>I</b>	<b>プロフェッショナリズム</b>	<b>3</b>
	ねらい	3
	評価	3
<b>II</b>	<b>センター研修</b>	<b>5</b>
<b>1.</b>	<b>センター業務全般を円滑に実施し、自ら行動できる</b>	<b>5</b>
	ねらい：修得すべき事項	5
	評価	5
<b>III</b>	<b>病棟研修</b>	<b>7</b>
<b>1.</b>	<b>病棟共通項目</b>	<b>7</b>
<b>2.</b>	<b>ケースカンファレンス</b>	<b>7</b>
	ねらい：修得すべき事項	7
	評価	7
<b>3.</b>	<b>ループリック評価</b>	<b>10</b>
	ねらい	10
	評価	10
<b>4.</b>	<b>ループリック評価</b>	<b>11</b>
	ねらい	11
	評価	11
<b>IV</b>	<b>修了時評価項目</b>	<b>29</b>
	1. センター	29
	2. 病棟	29
	3. 研究	29
	4. 教育	29
	5. プロフェッショナリズム	29
	6. 研修修了時評価	29

# I プロフェッショナリズム

## ねらい

1. まごころをもって患者中心の医療を実践する
2. 医療チームの中で薬剤師として自らの役割と責任を果たす
3. 常に社会人としてふさわしい身だしなみ、言葉遣いである
4. 定められたルールを遵守する
5. 患者に敬意を払って接する
6. 同僚や他の医療スタッフに敬意を払う
7. 課題について自ら考え、解決する方策を立案し、実践することができた
8. 業務上関連する法令を正しく理解し、これらを遵守して、医薬品管理等の業務に遂行する
9. 必要に応じ、上長や指導薬剤師に確認、連絡、報告する
10. 責任ある行動をとる

## 評価

### 評価方法

日々の業務に対する姿勢、態度、行動を評価し、月に1回評価票に基づいた評価を行う。不適切な姿勢、態度、行動が見られた場合でもフィードバックにより改<sup>④</sup>した場合は「適切」とする。プリセプターは適時、フィードバックの内容および評価をシニアに報告する。

### 評価者および評価時期

#### プリセプター

- ① 日々（随時）のフィードバック
- ② 月1回、全体を通した評価とフィードバック

#### シニア

プリセプターの評価を踏まえ、3か月に1回、面談してフィードバックする。

評価項目と合格基準

すべての項目が「適切」となった場合のみ、「適切」と評価する

No	評価項目	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月
1	まごころをもって患者中心の医療を実践していた	<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 不適切			
2	医療チームの中で薬剤師として自らの役割と責任を果たしていた	<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 不適切			
3	常に社会人としてふさわしい身だしなみ、言葉遣いであった	<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 不適切			
4	定められたルールを遵守していた	<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 不適切			
5	患者に敬意を払って接していた	<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 不適切			
6	同僚や他の医療スタッフに敬意を払っていた	<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 不適切			
7	課題について自ら考え、解決する方策を立案し、実践することができた	<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 不適切			
8	業務上関連する法令を正しく理解し、これらを遵守して、医薬品管理等の業務に遂行した	<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 不適切			
9	上長や指導薬剤師に適切なタイミングと方法で確認、連絡、報告していた	<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 不適切			
10	常に責任ある行動をとっていた	<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 不適切			

## II センター研修

### 1. センター業務全般を円滑に実施し、自ら行動できる

#### ねらい：修得すべき事項

1. 日直や当直の経験を活かし、センター業務が円滑に進むように自ら考え、行動できる。

#### 評価

##### 試験日

5月（異動者は6月）

##### 試験資格

自己申請（自身で手順を理解したと判断した時点）で適時試験を受ける

##### 試験方法

項目	形式	実施方法	評価者
処方監査 (調剤、注射、製剤、化学療法)	口頭試問	監査内容について口頭試問	シニア（センター）

##### 当直評価

項目	形式	実施方法	評価者
高度な疑義照会の対応	口頭試問	事例に基づき口頭試問	シニア（センター）
高難度新規医療技術・未承認新規医療品等の緊急使用の対応	口頭試問	事例に基づき口頭試問	シニア（センター）
システムダウン時の対応	口頭試問	手順書に基づき口頭試問	シニア（センター）
災害時の対応	口頭試問	手順書に基づき口頭試問	シニア（センター）

## 評価項目と合格基準

以下のすべての項目で「合格」と判定された場合、「業務修得」と判定する。

No	評価項目	判定
1	適切かつ迅速に調剤および監査する	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
2	適切かつ迅速に注射箋の調剤および監査をする	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
3	適切かつ迅速に製剤の調剤・調製および監査をする	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
4	適切かつ迅速にがん化学療法の調剤、調製、監査をする	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価

No	評価項目	判定
1	高度な疑義照会に適切に対応する	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
2	高難度新規医療技術・未承認新規医療品等の緊急使用依頼があった際に、手順に基づき、適切に対応する	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
3	システムダウン時に、適切に対応する。	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
4	災害時に、適切に対応する	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価

# III 病棟研修

## 1. 病棟共通項目

### 1. 病棟における医薬品管理

#### ねらい：修得すべき事項

病棟における薬物治療実践の基盤となる、医薬品関連業務を適切に実施する。

PGY1 での到達を確認しつつ、業務中の行動の観察に、適宜口頭試問を加え評価する。

1. 病棟における医薬品の流通・保管体制を把握し、適切に管理する。
2. 病棟における医薬品の適正使用を推進、実践する。
3. 上記2項目の実践を通じて、適切な薬物治療を実践し、チーム医療に貢献する。

#### 試験方法

担当病棟での研修 1 ヶ月後を目安に評価を行う。

No	評価項目	判定
1	病棟配置薬の種類や保管状況を理解する	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
2	病棟特性から医師や看護師へ情報提供が必要な薬について情報提供する	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
3	向精神薬、毒薬、麻薬、ハイアート薬など管理が必要な薬の保管状況を確認する	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
4	病棟内の薬品管理のチェックに必要な項目を挙げ、実践できる	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
5	医師や看護師から薬の粉碎可否や保管方法などについて質問された際に、適切な回答ができる	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
6	医師や看護師から注射剤の点滴時間・ルート選択や配合変化の質問をされた際に、適切な回答ができる	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価

### 2. 病棟における薬物治療の実践（スペシャルポピュレーション対象）

※ルーブリックの薬物治療関連項目をもとに評価する。

#### ねらい：修得すべき事項

入院患者に対する薬物治療の実践を通じて多職種連携チーム医療を実践し、患者の改善に貢献する。

4. 入院から退院までの一連の経過における薬物治療に関する問題点（ポリファーマシー等）を抽出し、継続した薬物治療計画を立案する。
5. 初期薬物治療計画から評価、治療プランの修正まで、薬学的知見に基づく積極的な介入・提案を実践する。
6. 退院後の適切な薬物治療の継続に向けて、退院時カンファレンスへの参加、情報提供書の作成・提供等により、地域医療（多職種）との連携を実践する。

## 7. スペシャルポピュレーション\*に対する薬物治療を実践する。

\*生理機能の特異性を有する高齢者や肝・腎障害患者、薬物動態の異なる小児・産婦人科、重篤度の高いER・ICU患者、問診が中心となる精神疾患患者など

## 評価

## 試験資格

1 病棟目から3病棟目の各病棟研修の終了時に、ルーブリック評価および業務中の行動の観察に、適宜口頭試問を加え評価する。

## 試験方法

項目	形式	実施方法	評価者
入院時患者対応（持参薬確認、初回面談、病態・病状の把握、初期計画の提案）	観察記録 口頭試問	事例に基づき口頭試問	シニア
薬物治療計画（病態・病状の把握、薬物治療計画の提案、服薬指導、患者記録）	観察記録 口頭試問	事例に基づき口頭試問	シニア
薬物治療の評価・修正（臨床所見の評価、患者経過の把握、薬物治療計画の提案、服薬指導、患者記録）	観察記録 口頭試問	事例に基づき口頭試問	シニア
退院時治療計画（臨床所見の評価、患者経過の把握、薬物治療計画の提案、服薬指導、患者記録）	観察記録 口頭試問	事例に基づき口頭試問	シニア
コミュニケーション（患者、多職種）	観察記録 口頭試問	事例に基づき口頭試問	シニア

## 評価項目と合格基準

1年目に到達した基礎病棟業務に関する以下の項目について、応用編として、スペシャルポピュレーションに対する実践を評価する。

## 【病棟一般：スペシャルポピュレーションを対象】

No	評価項目	判定
1	入院前支援業務、救急外来、集中治療室、手術室業務、ハイケアユニット病棟、一般病棟、退院後ケアカンファレンス等の入院前から退院後の患者の流れを理解し、説明できる	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
2	患者、生活者中心の医療の視点において個々に配慮した対応ができる	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
3	手術や検査時の使用薬を含め、内服薬、外用薬、注射薬の実施状況が把握できる	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
4	医薬品情報の収集、提供ができる	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
5	持参薬の鑑別と、入院後の服薬計画の立案ができる	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
6	医薬品を中心とした相互作用を確認することができる	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
7	ハイリスク・ハイアラート薬（注：その病院において投薬エラー発生時に有害事象を及ぼす可能性が高い薬剤）の服薬説明ができる	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価

8	投与量・流量の計算、投与時の注意点についてベッドサイドで確認できる	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
9	回診、カンファレンスにおいて、薬学的視点で発言ができる	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
10	医政局通知等の薬剤師関連業務について説明できる	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
11	様々な情報源を確認し、医師に対して処方変更を含めて処方提案ができる。	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
12	診療報酬の算定要件について説明できる（病棟薬剤業務）	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
13	病棟薬剤業務日誌を適切に作成できる	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
14	施設が採用する診療録（紙カルテ、電子カルテ）を適切に使用できる	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
15	種々の情報源から薬物療法に必要な情報を収集できる	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
16	患者、生活者と円滑にコミュニケーションができる	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
17	患者、生活者、カルテ情報などから患者情報・薬歴などを適切に得て評価できる	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
18	処方の妥当性について評価できる	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
19	代表的疾患について治療ガイドライン等を参照し、エビデンスに基づいた評価、提案ができる	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
20	治療アドヒアランス向上のための提案ができる	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
21	薬剤管理指導業務について適切な評価、記録（SOAP形式）が実践できる	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
22	患者、生活者に対して薬剤管理指導業務ができる	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
23	効果と副作用をモニタリングするための項目を列挙できる	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
24	臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
25	薬物治療の効果、副作用について患者の症状や検査所見から評価ができる	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
26	診療報酬上の主要な算定要件について必要な項目が列挙、対応できる（薬剤管理指導業務、病棟薬剤業務実施加算、退院時薬剤情報連携加算など）	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
27	指導者と情報共有が適切にできる	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
28	センター業務、病棟業務担当者と適切に情報が共有できる	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
29	入院病棟における様々な状況（急変対応等）での業務を理解し、説明できる	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
30	入院、退院、在宅を含めた地域での連携の重要性について説明できる	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
31	医師、看護師等の多職種と情報共有、コミュニケーションができる	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
32	医師、看護師等の多職種と連携しながら、薬物治療上の問題点解決のための情報を共有し、患者の治療に貢献できる	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
33	病院内の多様な専門医療チームの活動における薬剤師の役割を説明できる	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価

## 【スペシャルポピュレーションに対する専門項目】

No	評価項目	判定
1	手術室における薬剤師の業務について理解し、説明できる	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
2	集中治療室における薬剤師の業務について理解し、説明できる	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
3	ハイケアユニット病棟における薬剤師の業務について理解し、説明できる	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
4	小児病棟における薬剤師の業務について理解し、説明できる	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
5	老年症候群の状態にある患者に対する薬剤師の業務について理解し、説明できる。	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
6	妊婦・授乳婦に対する薬剤師の業務について理解し、説明できる。	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価
7	精神疾患患者に対する薬剤師の業務について理解し、説明できる。	<input type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 再評価

## 2. ケースカンファレンス

### ねらい：修得すべき事項

ジェネラリストに求められる3領域（内科、外科、がん）の病棟研修の到達度評価として、症例提示とディスカッションを通じた臨床スキルの向上を目指す。

- (1) 研修における臨床研修薬剤師の課題を抽出し、各領域の指導薬剤師からフィードバック（形成的評価）を行う。

### 評価

#### 試験方法

臨床研修薬剤師が、症例レポート（長編）に基づき、口頭でプレゼンテーションする。

#### 発表時間

発表 15 分、質疑応答 15 分

#### 評価者

原則としてアシスタント 1 名とシニアもしくは専門・認定薬剤師 1 名の 2 名

## 内科領域評価表

No	評価項目			
1	疾患（重症度）、病歴、薬歴、身体所見、生理学的所見（画像、心電図等）、検査所見等に基づき、 <u>問題点リスト</u> を重要度順に提示している	3	2	1
2	適切な科学的根拠（ガイドライン等）を適用し、 <u>治療薬選択の適否</u> 、追加治療の必要性、不要な薬剤の有無を評価している（説明できる）	3	2	1
3	治療薬の投与量、投与方法について、薬物の消失経路と患者の臓器機能などから評価し、必要に応じて修正案を提案している	3	2	1
4	使用されている薬剤で、 <u>薬物相互作用</u> （薬物間、食物など）の有無を適切に評価し、必要時に回避方法を提案している	3	2	1
5	選択した治療薬の効果が不十分であった場合の <u>選択薬</u> を検討・提示している	3	2	1
6	治療目標について、 <u>評価項目</u> と具体的な <u>目標値</u> を設定している	3	2	1
7	薬物治療の効果判定を適切な時期に実施し、必要に応じてプランを調整している。	3	2	1
8	副作用の発現有無を適切な時期に評価・判定し、必要に応じて対応策を講じている	3	2	1
9	薬効に関する必要事項を、患者に指導し、理解度を評価している	3	2	1
10	副作用に関する必要事項を、患者に指導している	3	2	1

## 外科領域評価表

No	評価項目			
1	術前に中止すべき薬剤の有無を確認し、必要に応じて中止指示と中止期間中の代替療法を提案している	3	2	1
2	実施した手術の施行後の臓器・器官の解剖学的な変化を（必要に応じ図示して）理解している。	3	2	1
3	患者の手術環境（手術の汚染度、患者の副作用歴、臓器機能など）から、予防的抗菌薬（医薬品、投与量、投与期間）の妥当性を評価し、必要に応じて変更案提案している。	3	2	1
4	患者の <b>血栓症</b> のリスク評価から、選択された <b>血栓予防薬</b> （投与可否、薬名、投与量、投与期間）の妥当性を評価し、必要に応じて変更案を提案している。	3	2	1
5	術後悪心嘔吐（PONV）を適切な時期に評価し、発症時の治療薬（薬名、用法、用量）を立案して、必要に応じて提案している。	3	2	1
6	術後 <b>血栓塞栓症</b> を適切な時期に評価し、発症時の治療薬（薬名、用法、用量）を立案して、必要に応じて提案している。	3	2	1
7	術後せん妄を適切な時期に評価し、発症時の治療薬（薬名、用法、用量）を立案して、必要に応じて提案している。	3	2	1
8	鎮痛薬（薬名、用法、用量、投与期間）の妥当性を、病態と術式、術後の経過、術後疼痛の程度（NRS、VAS）、患者の副作用歴、臓器機能などから評価し、必要に応じて変更案を提案している。	3	2	1
9	術後創部感染（SSI）の評価を適切な時期に実施し、SSI発症時の抗菌薬（薬名、投与量、投与期間）を選択し、必要に応じて提案している。	3	2	1
10	術後の薬物治療に関し、患者に必要な事項を指導している。	3	2	1

## がん領域評価表

No	評価項目			
1	選択されたレジメンの適否を、患者の病歴、ステージ、PS、治療歴（手術、化学療法）、遺伝子型などから評価し、必要に応じて変更案を提案している。	3	2	1
2	選択されたレジメンの期待される効果（奏効率、生存期間中央値等）を他の治療選択肢と対比したうえで理解している。	3	2	1
3	抗がん剤の投与量、投与方法について、薬物の消失経路と患者の臓器機能、PS、用量規制毒性などから評価し、必要に応じて修正案を提案している。	3	2	1
4	選択された支持療法について、ガイドライン、過去の副作用発現状況などから評価し、必要に応じて変更案を提案している。	3	2	1
5	選択したレジメンの効果が十分でなかった場合のレジメン選択を検討・提示している	3	2	1
6	用量規制毒性発生時の対応策（抗がん剤の減量・中止、支持療法の強化等）を立案し、必要に応じて対応策を講じている	3	2	1
7	がん化学療法の効果判定を適切な時期に実施し、必要に応じてプランを調整している。	3	2	1
8	副作用の発現有無を適切な時期に評価・判定し、必要に応じて対応策を講じている	3	2	1
9	レジメンに関する必要事項（治療スケジュール、副作用など）を患者に説明し、理解度を評価している	3	2	1
10	がん性疼痛の有無、病態、疼痛の程度（NRS、VAS）を評価したうえで、鎮痛薬（薬名、用法、用量、投与期間）の妥当性と効果と副作用を評価し、必要に応じて変更案を提案している。	3	2	1

## 判定基準

3：優れている

2：滞りなく実施している

1：不足している

合計点 20 点以上で合格（10～30 点）

### 3. ルーブリック評価

#### ねらい

1. 薬剤師が臨床で有すべき能力（コンピテンシー）を、どの程度修得できたかを段階的に評価する
2. コンピテンシーの修得において、足りない点を明らかにする。

#### 評価

##### 評価時期

日々の研修内容、実施事項を観察して評価する。毎月月末に臨床研修薬剤師と振り返り、評価入力する。

##### 評価者

プリセプター

##### 試験方法

プリセプターが日々の研修状況を観察して3か月に1回評価する。

##### 評価項目と到達目標

評価項目は次のページ以降を参照する。PGY2 修了時点でAレベルを目標とする。

##### ルーブリック評価表

PGY1と同様の評価表を継続して用いる。

## 4. ルーブリック評価

### ねらい

3. 薬剤師が臨床で有すべき能力（コンピテンシー）を、どの程度修得できたかを段階的に評価する
4. コンピテンシーの修得において、足りない点を明らかにする。

### 評価

#### 評価時期

日々の研修内容、実施事項を観察して評価する。毎月月末に臨床研修薬剤師と振り返り、評価入力する。

#### 評価者

プリセプター

#### 試験方法

プリセプターが日々の研修状況を観察して3か月に1回評価する。

#### 評価項目と到達目標

評価項目は次のページ以降を参照する。PGY1を修了した時点で全項目Aレベルを目標とする

1. 持参薬確認と初回面談準備 『持参薬確認を適切に実施し，初回面談に備える』

A	B	C	D
<p>□ 持参薬の正確な内容確認と種々の医療情報から、患者の治療中の疾病の病状や治療目標と、持参薬の薬理作用・作用機序を関連付けて把握し、治療中の疾病や持参薬と関連する入院中の問題点を優先順位をつけてもれなく想定できている。</p>	<p>□ 持参薬の正確な内容確認と種々の医療情報(紹介状、外来カルテ、診療録など)から、患者の治療中の疾病の病状や治療目標と、持参薬の薬理作用・作用機序を関連付けて把握している。</p>	<p>□ 持参薬の内容と残数を正確に確認でき、持参薬の適応症、薬理作用、作用機序から、患者に最も可能性の高い使用目的を挙げている。</p>	<p>□ 持参薬の医薬品の内容(種類、剤形、用法・用量)と残数を正確に確認でき、持参薬の適応症、薬理作用、作用機序から推測される基本的な使用目的を挙げている。</p>
<p>□ 面談時に持参薬の有効性と安全性を評価するための最適な確認項目を、事前にもれなく準備している。</p>	<p>□ 面談時に持参薬の有効性と安全性を評価するための最適な確認項目を、事前にもれなく準備している。</p>	<p>□ 面談時に持参薬の有効性と安全性を評価するための基本的な確認項目を、事前に準備している。</p>	<p>□ 面談時に持参薬の有効性と安全性を評価するための基本的な確認項目のいくつかを挙げている。</p>
<p>□ お薬手帳や医薬品情報説明用紙から、入院治療に影響を及ぼす重要な情報を漏れなく抽出し、評価できている。</p>	<p>□ お薬手帳や医薬品情報説明用紙から、入院治療に影響を及ぼす重要な情報を漏れなく抽出し、評価できている。</p>	<p>□ お薬手帳や医薬品情報説明用紙を、持参薬の内容と合わせて確認したうえで、面談時の情報源として活用している。</p>	<p>□ お薬手帳や医薬品情報説明用紙を確認している。</p>

2. 初回面談 『初回面談で、病状の評価に必要な情報を収集する』

A	B	C	D
<input type="checkbox"/> 患者の病状と経過、持参薬の有効性と安全性を評価するための基本的情報と患者情報を、適切な手順でスムーズに、もれなく収集・測定・観察できている。	<input type="checkbox"/> 患者の病状と経過、持参薬の有効性と安全性を評価するための基本的情報と患者情報をもれなく収集・測定・観察できている。	<input type="checkbox"/> 患者の病状(疾患名、症状、重症度)を評価するための基本的情報と、事前に準備した特定の患者情報を収集できている。	<input type="checkbox"/> 指導者のサポートを得ながら、患者の病状(疾患名、症状、重症度)と経過に対する基本的情報(症状や訴え:LQQTSAFA)、事前に準備した特定の患者情報(アレルギー、副作用、嗜好品、既往歴、服薬歴、他科受診など)を収集できている。
<input type="checkbox"/> 患者の入院目的、持参薬に対する理解度や心理状態・思いを、正確かつ詳細に聴取し理解している。	<input type="checkbox"/> 患者の入院目的、持参薬に対する理解度や心理状態・思いを聴取し理解している。	<input type="checkbox"/> 患者の入院目的や持参薬に対する理解度や心理状態・思いを、一通り聴取している。	<input type="checkbox"/> 指導者のサポートを得ながら、患者の入院目的や心理状態・思いを、一通り聴取している。
<input type="checkbox"/> 収集し、記録(メモ)した情報は正確かつ詳細で客観性が十分に確保されており、他職種の収集した情報と照らし合わせて確認している	<input type="checkbox"/> 収集し、記録(メモ)した情報は正確かつ詳細であり、他職種の収集した情報と照らし合わせて確認している	<input type="checkbox"/> 患者から得た情報を、正確に記録(メモ)している。	<input type="checkbox"/> 患者からの情報を、記録(メモ)しながら聴取できている。

3. 入院時指示 『初回面談で得た情報を評価し、医療チームのスタッフに必要な情報を伝える』

A	B	C	D
<input type="checkbox"/> 患者から収集した情報と事前に収集した情報を合わせて、現在の病状、持参薬の有効性・安全性と必要性および、理解度、患者の入院に対する理解、心理状態を適切に評価できている。	<input type="checkbox"/> 患者から収集した情報と事前に収集した情報を合わせて、現在の病状(疾患名、症状、重症度)、持参薬の有効性・安全性と必要性を適切に評価している。	<input type="checkbox"/> 患者から収集した情報から、現在の病状と持参薬の有効性と安全性を評価している。	<input type="checkbox"/> 指導者のサポートを得ながら、患者から収集した情報から、現在の病状と持参薬の有効性と安全性を評価できている。
<input type="checkbox"/> 持参薬の有効性・安全性と理解度の評価から、持参薬が適切か判断し、入院中の治療方針に則した適切な持参薬に関わる方針を立案している。	<input type="checkbox"/> 持参薬の有効性と安全性の評価から、持参薬が適切か判断し、院内の採用薬をもとに、持参薬に関わる方針を立案している。	<input type="checkbox"/> 持参薬が適切か検討し、方針を示している。	<input type="checkbox"/> 指導者のサポートを得ながら、持参薬が適切か(種類、用法、用量、剤形など)検討し、方針(継続、中止、変更)を示すことができている。
<input type="checkbox"/> 初回面談の評価から、患者の問題点をもれなく、適切な優先順位をつけて挙げている。	<input type="checkbox"/> 初回面談で聴取した情報から、薬剤師として優先順位の高い問題点を挙げられている。	<input type="checkbox"/> 初回面談で聴取した情報から、薬剤師としての問題点を挙げている。	<input type="checkbox"/> 初回面談で聴取した情報を整理して、問題点を挙げる準備ができている。
<input type="checkbox"/> 初回面談にもとづく問題点リストと持参薬の方針をわかりやすく記載し、医師、看護師に遅延なく正確に伝達している。	<input type="checkbox"/> 初回面談にもとづく問題点リストと持参薬の方針を記載し、医師、看護師に伝達している。	<input type="checkbox"/> 初回面談にもとづく問題点リストと持参薬の方針を記載している。	<input type="checkbox"/> 指導者のサポートを得ながら、初回面談にもとづく問題点リストと持参薬の方針を記載できる。

## 4. 治療方針の理解と病状（治療）の説明 『医療チームの一員として、治療方針についてチームで一貫した情報提供を行う』

A	B	C	D
□ 患者の入院目的と医療チームの治療方針，患者の理解（入院目的，疾病の理解・思い）を正確に把握し共有できている。	□ 患者の入院目的と医療チームの治療方針を共有できている。	□ 患者の入院目的と医療チームの治療方針理解している。	□ 患者の入院目的と医療チームの治療方針（治療の選択，治療目標，退院の目安）を理解できるが，指導者のサポートを要する。
□ 医療チームで薬剤師が担うべき役割を把握し，担当薬剤師としての自己行動計画をたてて，チームで共有できている。	□ 医療チームで薬剤師が担うべき役割を理解し，入院中の自己行動計画をたてられている。	□ 医療チームで薬剤師が担うべき役割を理解している。	□ 医療チームで薬剤師が担うべき役割をいくつか挙げている。
□ 病状説明の際に，患者の薬物治療に対する情報を，医療チームの方針に則して，患者に正確にわかりやすく説明している。	□ 病状説明の際に，患者の薬物治療に対する情報を，実際に患者にわかりやすく説明している。	□ 病状説明に参加し，患者に説明すべき薬物治療の情報を理解している。	□ 病状説明に適切な態度で参加できている。
□ 患者の心理的影響に配慮したうえで，患者に理解しやすい言葉で説明し，理解を得られたことを確認している。	□ 患者の心理的影響に配慮したうえで，患者に理解しやすい言葉で説明している。	□ 病状説明の際に，患者の理解度や疑問・不安に配慮して使用すべき言葉や，適切な接遇と回答のポイントを理解している。	□ 病状説明の際に，患者の理解度や疑問・不安に配慮して使用すべき言葉を理解している。
□ 患者の疑問や不安に対して，適切な接遇と回答を行い，その軽減に努めている。	□ 患者の疑問や不安に対して，適切な接遇と回答を行っている。	□ 患者の疑問や不安に対して，適切な接遇を行っている。	□ 患者の疑問や不安に対して，共感的態度をとれている。

5. 薬物治療の提案 『患者の病態を把握し、薬物治療の適性を評価したうえで最適な薬物治療を立案し、提案する』

A	B	C	D
<input type="checkbox"/> 提案した治療プラン(Cp)は最適な科学的根拠に基づいており、患者の現在の病状や生理機能、合併症とともに、患者の思いや環境に配慮した最適な選択となっている。	<input type="checkbox"/> 提案した治療プラン(Cp)が何らかの科学的根拠に基づいており、患者の現在の病状や生理機能、合併症とともに、患者の思いや環境に配慮した選択となっている。	<input type="checkbox"/> 提案した治療プラン(Cp)が患者の疾患や病態に対する標準治療(ガイドラインなどに基づく)を考慮したうえで立案されたものであり、患者の思いや環境に何らかの配慮をして選択(種類、用法用量、剤形)している。	<input type="checkbox"/> 提案した治療プラン(Cp)は、患者の疾患に対する保険適応を有するものであり、何らかの根拠が明確な3次資料をもとに立案されている。
<input type="checkbox"/> 提案した治療プラン(Cp)は、薬学的根拠がもれなく検討されており、患者個々の病態と論理的に一致した最適なものである。	<input type="checkbox"/> 提案した治療プラン(Cp)は、薬学的根拠が患者個々の病態に配慮して検討されたものである。	<input type="checkbox"/> 提案した治療プラン(Cp)は、薬学的根拠を適切に検討したうえで選択されている。	<input type="checkbox"/> 提案した治療プラン(Cp)は、何らかの薬学的根拠(薬理作用、作用機序、薬物動態など)に基づいて検討されている。
<input type="checkbox"/> 観察プラン(Op)は、薬物治療の有効性と安全性を観察・評価できる最適な項目と時点、および目標・基準となっており、次の評価時点までの明確な治療目標が提示されている。	<input type="checkbox"/> 観察プラン(Op)は、薬物治療の効果と副作用を観察・評価できる適切な項目と目標・基準がもれなく提示されている。	<input type="checkbox"/> 観察プラン(Op)は、薬物治療の効果と副作用を観察・評価できる代表的な項目は提示されている。	<input type="checkbox"/> 観察プラン(Op)は、薬物治療の効果と副作用の観察・評価を目的とした何らかの項目が提示されている。
<input type="checkbox"/> 教育プラン(Ep)は、患者の理解を助け、薬物治療をサポートできる項目がもれなく挙げられており、個々の患者の理解度や思いに合わせた最適な項目となっている。	<input type="checkbox"/> 教育プラン(Ep)は、患者の理解を助け、薬物治療をサポートできる項目がもれなく挙げられている。	<input type="checkbox"/> 教育プラン(Ep)は、患者の理解を助け、薬物治療をサポートする代表的な項目が挙げられている。	<input type="checkbox"/> 教育プラン(Ep)は、患者の理解を助け、薬物治療のサポートを目的としたなんらかの項目が挙げられている。
<input type="checkbox"/> 自ら立案したプランはチームで協議したのちに、理解・共有されたチームのプランに組み込まれている。	<input type="checkbox"/> 自ら立案したプランを医療チームのメンバーに提示し理解を得ている。	<input type="checkbox"/> 自ら立案したプランを医療チームのメンバーにも提示している。	<input type="checkbox"/> 自ら立案したプランを指導者に提示し、医療チームのメンバーに提示する準備をしている。

6. 処方監査 『種々の医療情報から患者の病態を把握し、処方の適正を評価する』

A	B	C	D
<input type="checkbox"/> Bの基準に準じて、短時間で効率よく、多様な患者に対して実施できている。	<input type="checkbox"/> 実習病棟で使用される医薬品の大部分について、処方せんの内容と薬歴や種々の医療情報を合わせて、使用目的（適応症と薬理作用、作用機序）や用法用量、投与経路が、現在の病状に適切であるか評価できている。	<input type="checkbox"/> 実習病棟で特徴的に使用される医薬品について、処方せんの内容と薬歴や種々の医療情報を合わせて、使用目的（適応症と薬理作用、作用機序）や用法用量が、保険適応上適切であるか評価できている。	<input type="checkbox"/> 処方せんの内容から、適応症や用法用量、投与経路が適切であるか評価できている。
<input type="checkbox"/> Bの基準に準じて、短時間で効率よく、多様な患者に対して実施できている。	<input type="checkbox"/> 処方変更を把握し、変更理由を病状の変化と合わせて評価し、必要に応じて最適な用法用量に修正できる。	<input type="checkbox"/> 処方変更気づき、変更の理由を理解したうえで、変更後の用法用量が保険適応上適切であるか評価できる。	<input type="checkbox"/> 処方の変更に気づく方法を理解している。
<input type="checkbox"/> Bの基準に準じて、短時間で効率よく、多様な患者に対して実施できている。	<input type="checkbox"/> 薬物間相互作用や配合変化の可能性について、もれなく評価し、可能性がある場合に適切な対応策を提示できている。	<input type="checkbox"/> 処方せんの内容と種々の医療情報から、薬物間相互作用や配合変化の可能性に気づくことができている。	<input type="checkbox"/> 処方せん内の薬物間相互作用や配合変化の可能性に気づくことができている。
<input type="checkbox"/> Bの基準に準じて、短時間で効率よく、多様な患者に対して実施できている。	<input type="checkbox"/> 禁忌項目を除外し、医薬品の警告や注意などの投与制限をすべて把握したうえで処方内容が適正であるかを評価し、適正でない場合に適切な対応策を提示できている。	<input type="checkbox"/> 禁忌項目を除外し、医薬品の警告を把握したうえで、不適切な処方を未然に防止できている。	<input type="checkbox"/> 禁忌項目を除外し、不適切な処方に気づくことができている。
<input type="checkbox"/> Bの基準に準じて、短時間で効率よく、多様な患者に対して実施できている。	<input type="checkbox"/> 重複投与の有無を、同効薬の場合も含めてもれなく確認している。	<input type="checkbox"/> 処方せんの内容と薬歴や種々の医療情報を合わせて、重複投与に気づくことができている。	<input type="checkbox"/> 処方せん内の重複投与に気づくことができている。
<input type="checkbox"/> Bの基準に準じて、短時間で効率よく、多様な患者に対して実施できている。	<input type="checkbox"/> 薬物治療が途切れずに継続できるかを、もれなく確認している。	<input type="checkbox"/> 薬物治療が途切れずに継続できるかを、チェックしている	<input type="checkbox"/> 薬物治療が継続できるかを、チェックしている

7. 臨床検査データの確認 『臨床検査データを確認し、患者の状態を評価する』

A	B	C	D
<input type="checkbox"/> Bの基準に準じて、短時間で効率よく、多様な患者に対して実施できている。	<input type="checkbox"/> 患者の病状や薬物治療の有効性と安全性を評価するために、最適な臨床検査が必要な時期に行われているか確認できている。	<input type="checkbox"/> 患者の病状、薬物治療の有効性と安全性を評価するための、代表的な臨床検査が行われているか確認できている。	<input type="checkbox"/> 患者の主要な検査の実施理由を考察し、検査データを確認している。
<input type="checkbox"/> 必要な検査が必要な時期に行われていない場合に、検査の実施を提案できている。	<input type="checkbox"/> 適切な時期に、画像も含めたすべての検査データを確認・評価している。	<input type="checkbox"/> 画像も含めたすべての検査データを確認・評価している。	<input type="checkbox"/> 画像も含めた検査データを確認している。
<input type="checkbox"/> Bの基準に準じて、短時間で効率よく、多様な患者に対して実施できている。	<input type="checkbox"/> 異常所見に対して、複数の検査データを合わせて多面的に評価し、可能性のある原因を優先順位を付けて複数挙げている。	<input type="checkbox"/> 異常所見に対して、複数の検査データを合わせて評価し、可能性のある原因を複数挙げて評価している。	<input type="checkbox"/> 検査データを、患者の病態、合併症、既往歴、使用薬剤と関連づけて評価し、異常所見に対して可能性の高い原因を挙げている。
<input type="checkbox"/> Bの基準に準じて、短時間で効率よく、多様な患者に対して実施できている。	<input type="checkbox"/> 検査データとその推移を正確に把握し、患者の病態、生理機能、症状、合併症、既往歴、使用薬剤(効果・副作用)などと関連づけて適切に評価・考察している。	<input type="checkbox"/> 検査データとその推移を正確に把握し、患者の病態、生理機能、症状、病態、合併症、既往歴、使用薬剤(効果・副作用)などと関連づけている。	<input type="checkbox"/> 検査データを把握し、患者の病態と関連づけている。

8. 薬歴・経過表の作成 『薬歴・経過表を作成し、患者状態の変化と医薬品の一連の流れを把握する』

A	B	C	D
□ Bの基準に準じて、短時間で効率よく、多様な患者に対して実施できている。	□ 薬歴を正確に、最新の情報までもれなく、わかりやすく記載し、まとめている。	□ 薬歴を正確にわかりやすく記載している。	□ 薬歴をもれなく記載している。
□ Bの基準に準じて、短時間で効率よく、多様な患者に対して実施できている。	□ 薬物治療の有効性と安全性、病状の推移を評価するための最適な情報が、把握しやすい形式で記載されている。	□ 薬物治療の有効性と安全性、病状(診断、治療、症状・検査所見)の推移を評価するために必要な情報が、もれなく記載されている。	□ 薬物治療の有効性と安全性を評価するための代表的な項目(検査値、症状など)が記載されている。
□ Bの基準に準じて、短時間で効率よく、多様な患者に対して実施できている。	□ 薬歴経過表が、自身の行動プラン(Cp,Op,Ep)と一貫しており、患者状態の確認、有効性と安全性の評価、相互作用・重複投与や配合変化の回避の確認などに活用できている。	□ 薬歴経過表が、自身の行動プラン(Cp,Op,Ep)と一貫している。	□ 自身の行動プラン(Cp,Op,Ep)のいくつか、薬歴経過表に反映されている。

## 9. 服薬指導準備 『各種医療記録から情報を収集し、服薬指導時の行動を事前に準備する』

A	B	C	D
□ Bの基準に準じて、短時間で効率よく、多様な患者に対して実施できている。	□ 必要な各種医療記録を的確に確認し、他職種から直接収集した情報と合わせて、事前に挙げた問題点が現在の状態に最適かを確認し、必要に応じ修正している。(問題点を挙げていない場合は新たに挙げる)	□ 必要な各種医療記録をもれなく確認し、事前に挙げた問題点が現在の状態に適しているか確認している。(問題点を挙げていない場合は新たに挙げる)	□ 各種医療記録を確認し、面談時に確認すべき問題点を挙げている。
□ Bの基準に準じて、短時間で効率よく、多様な患者に対して実施できている。	□ 各種医療記録および他職種からの情報に基づき、自身の立案した薬物治療プラン(Cp, Op, Ep)が現在の状態に最適かを確認し、必要に応じ修正している。	□ 各種医療記録の情報に基づき、自身の立案した薬物治療プラン(Cp, Op, Ep)が、現在の状態に適しているか確認している。	□ 面談時に確認する問題点对する、プラン(Cp, Op, Ep)を準備している。
□ Bの基準に準じて、短時間で効率よく、多様な患者に対して実施できている。	□ 上記の確認をもとに、現在の病状に最適な収集内容、指導、観察・測定項目が準備できている。	□ 上記の確認をもとに、現在の病状に適した収集、指導、観察・測定する項目が準備できている。	□ 上記の確認をもとに、何らかの収集、指導、観察・測定する項目が準備できている。
□ Bの基準に準じて、短時間で効率よく、多様な患者に対して実施できている。	□ 患者の理解度や心理状態に合わせた指導方法を検討し、多様な反応を想定した対応・支援方法を準備できている。	□ 患者の理解度や心理状態に合わせた指導方法を検討している。	□ 患者の理解度に合わせた指導方法を検討している。

## 10. 服薬指導の実施 『患者面談で正確な情報を提供し、薬物治療の評価に必要な情報を収集する』

A	B	C	D
<input type="checkbox"/> 事前に準備した指導内容をもとに、面談時の状況に応じた最適な指導内容を選択し、わかりやすく伝え、患者が理解し、受け入れていることを確認している。	<input type="checkbox"/> 事前に準備した指導内容をわかりやすく伝え、患者が理解し、受け入れていることを確認している。	<input type="checkbox"/> 事前に準備した指導内容をわかりやすく伝えている。	<input type="checkbox"/> 指導者のサポートを得ながら、事前に準備した指導内容(Ep)をわかりやすく伝えている。
<input type="checkbox"/> 事前に準備した収集内容をもとに、面談時の状況に応じた収集内容を選択し、最適な手順で、詳細かつ正確に収集・測定・観察できている。	<input type="checkbox"/> 事前に準備した収集内容を、適切な手順で、詳細かつ正確に、収集・測定・観察できている。	<input type="checkbox"/> 事前に準備した収集内容を、適切な手順で、収集・測定・観察できている。	<input type="checkbox"/> 指導者のサポートを得ながら、事前に準備した収集内容(Op: 症状、バイタルサイン、身体所見、アドヒアランスなど、患者の思い、表情など)を収集・測定・観察できている。
<input type="checkbox"/> 医薬品に関する正確でわかりやすい情報提供を通して、薬物治療の理解と選択を支援し、受け入れていることを確認している。	<input type="checkbox"/> 医薬品に関する正確でわかりやすい情報提供を通して、薬物治療の理解と選択を支援している。	<input type="checkbox"/> 医薬品に関するわかりやすい情報提供を通して、薬物治療の理解を支援している。	<input type="checkbox"/> 指導者のサポートを得ながら、医薬品に関する説明を通して、疑問や不安の軽減を支援している。
<input type="checkbox"/> 多様な患者(高齢者、小児、妊婦・授乳婦、不安定な精神状態、重篤な病状など)に適切に対応し、患者の多様な質問・反応や状況に合わせて臨機応変に説明・対応することで、患者の理解と疑問や不安の軽減を支援している。	<input type="checkbox"/> 患者の質問・反応や状況に合わせて臨機応変に説明・対応することで、患者の理解と疑問や不安の軽減を支援している。	<input type="checkbox"/> 患者の質問・反応に対応することで、患者の理解と疑問や不安の軽減を支援している。	<input type="checkbox"/> 指導者のサポートを得ながら、患者の質問・反応に対応することで、患者の理解を支援している。

## 11. 服薬指導後の対応『服薬指導で得た情報を評価し、医療チームで共有し、記録する』

A	B	C	D
□ Bの基準に準じて、短時間で効率よく、多様な患者に対して実施できている。	□ 患者面談で得た様々な情報を整理し、事前に収集した情報と合わせて適切に評価し、問題点と優先順位を見直して挙げている。	□ 患者面談で得た様々な情報を評価し、問題点と優先順位を見直して挙げている。	□ 指導者のサポートを得て、患者面談で得た様々な情報を評価し、問題点と優先順位を見直して挙げている。
□ Bの基準に準じて、短時間で効率よく、多様な患者に対して実施できている。	□ 患者面談に基づく評価から、事前に立案したプランを見直し、問題点に対する実現可能で最適な対応策を立案している。	□ 患者面談に基づく評価から、事前に立案したプランを見直し、問題点に対する対応策を立案している。	□ 指導者のサポートを得て、患者面談に基づく評価から事前に立案したプランを見直し、問題点に対する対応策を立案している。
□ Bの基準に準じて、短時間で効率よく、多様な患者に対して実施できている。	□ 患者面談で得た情報・問題点とその評価・プラン、指導・説明内容を、他職種に適切に伝達し、治療方針を共有している。	□ 患者面談で得た情報・問題点とその評価・プラン、指導・説明内容を、他職種に伝達している。	□ 指導者のサポートを得て、患者面談で得た情報・問題点とその評価・プラン、指導・説明内容を、他職種に伝達している。
□ Bの基準に準じて、短時間で効率よく、多様な患者に対して実施できている。	□ 患者面談で得た情報・問題点とその評価・プラン、指導・説明内容を、所定の書式に従い正確かつ簡潔に、わかりやすく記録している。	□ 患者面談で得た情報・問題点とその評価・プラン、指導・説明内容を、所定の書式に従い正確に記録している。	□ 指導者のサポートを得ながら、患者面談で得た情報・問題点とその評価・プラン、指導・説明内容を、所定の書式に従い記録している。

## 12. コミュニケーション

## 『医療者や患者と適切にコミュニケーションをはかる』

A	B	C	D
□ コミュニケーションに必要なマナーを常に守り、どのような場面でも状況に合わせた適切な態度を選択することができる。	□ コミュニケーションに必要なマナーを常に守り、日常的に状況に合わせた適切な態度を選択することができる。	□ コミュニケーションに必要なマナーを常に守り、基本的な場面では、状況に合わせた適切な態度を選択することもできる。	□ 日常のコミュニケーションの際に、基本的なマナー（挨拶、身だしなみ、言葉づかい、ふるまい、など）を守っている。
□ 多様な患者に対して、心理状態や病状の変化、理解度と反応に合わせて、適切な言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーションを選択し、実施している。	□ 患者の心理状態や病状の変化、理解度と反応に合わせて、適切な言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーションを選択し、実施している。	□ 適切な言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーションを実施している。	□ 指導者のサポートを得ながら、適切な言語的コミュニケーション（わかりやすい表現、開放型・閉鎖型質問、声の大きさ、スピード、音調、など）・非言語的コミュニケーション（アイコンタクト、表情、など）を実施している。
□ 多様な患者に対して、患者からの言葉を傾聴し、患者の心理状態に応じた受容的、共感的、支持的態度で接している。	□ 患者からの言葉を傾聴し、患者の心理状態（思いや不安）に応じた受容的、共感的、支持的態度で接している。	□ 患者からの言葉を傾聴し、受容的、共感的、支持的態度で接している。	□ 患者からの言葉を傾聴し、受容的態度で接している。
□ 多様な患者に対して、入院期間を通して良好なコミュニケーションを継続し、信頼関係を構築している。	□ 入院期間を通して、患者と良好なコミュニケーションを継続し、信頼関係を構築している。	□ 入院期間を通して、患者と良好なコミュニケーションを継続している。	□ 患者と良好なコミュニケーションを実施している。
□ 多種多様な疾患、価値観、背景を持つ複数の患者に対して、対応が困難な状況下でも個々に適した面談を行うことができている。	□ 多種多様な疾患、価値観、背景を持つ患者と、個々に適した面談を行うことが、複数の患者に対してできている。	□ 異なった疾患、価値観、背景を持つ患者と、個々に合わせた面談を行うことができている。	□ 患者と面談を行うことができている。
□ 病棟の多くの医療スタッフと、日常的に適切な態度で接して、コミュニケーションを取り、良好な人間関係、信頼関係を構築している。	□ 病棟の多くの医療スタッフと、日常的に適切な態度で接して、コミュニケーションを取り、良好な人間関係を構築している。	□ 病棟の多くの医療スタッフと適切な態度で接して、コミュニケーションを取っている。	□ 病棟の医療スタッフ（医師、看護師、薬剤師など）と適切な態度で接している。
□ ささまざまな患者に関する多様な情報を、他職種に対して日常的に適切な医療用語を用いて正確かつ円滑に伝達・収集して共有し、問題解決に効果的な討議を行っている。	□ 患者に関する多様な情報を、他職種に対して日常的に適切な医療用語を用いて正確かつ円滑に伝達・収集して共有し、問題解決のための討議を行なうこともある。	□ 患者に関する基本的な情報を、他職種に対して医療用語を用いて適切に伝達・収集して共有している。	□ 患者に関する基本的な情報を、他職種に対して医療用語を用いて伝達している。

## 13. 退院時指導 『退院時指導を実施し、退院後の患者の薬物治療を支援する』

A	B	C	D
<input type="checkbox"/> 多様な患者に対して、入院中の指導状況と退院後の薬物治療、退院後の環境を確認し、適切な対象と最適な指導項目を、具体的なプランとして立案できている。	<input type="checkbox"/> 入院中の指導状況と退院後の薬物治療、退院後の環境を確認し、適切な対象(患者、家族)と適切な指導項目をプランとして立案できている。	<input type="checkbox"/> 入院中の指導状況と退院後の薬物治療を確認し、必要な指導項目を、具体的なプランとして立案できている。	<input type="checkbox"/> 指導者のサポートを得ながら、入院中の指導状況と退院後の薬物治療を確認し、必要な指導項目を、具体的なプランとして立案できている。
<input type="checkbox"/> 患者、家族の理解度や心理状態に配慮して、指導項目をわかりやすく説明し、理解を確認している。	<input type="checkbox"/> 患者・家族に対し、指導項目をわかりやすく説明し、理解を確認している。	<input type="checkbox"/> 患者に対し、指導項目をわかりやすく説明している。	<input type="checkbox"/> 指導者のサポートを得ながら、患者に対して指導項目を説明している。
<input type="checkbox"/> 患者・家族からの多様な質問・反応や状況に合わせて、臨機応変に説明・対応することで、薬物治療の理解と受け入れを支援している。	<input type="checkbox"/> 患者・家族からの質問・反応に説明・対応することで、薬物治療の理解と受け入れを支援している。	<input type="checkbox"/> 患者からの質問に対応することで、薬物治療の理解と受け入れを支援している。	<input type="checkbox"/> 指導者のサポートを得ながら、患者からの質問に対応することで、薬物治療の理解と受け入れを支援している。
<input type="checkbox"/> 多様な患者に対して、薬剤情報提供書を患者の理解に合わせて作成し、指導に活用したうえで、患者の理解を確認している。	<input type="checkbox"/> 薬剤情報提供書を作成し、指導に活用したうえで、患者の理解を確認している。	<input type="checkbox"/> 薬剤情報提供書を作成し、指導に活用している。	<input type="checkbox"/> 指導者のサポートを得ながら、薬剤情報提供書を作成し、指導に活用している。
<input type="checkbox"/> お薬手帳あるいは紹介状に、医療連携の支援を意識して、必要項目を正確にわかりやすく記載し、患者に活用法について説明し、理解を得ている。	<input type="checkbox"/> お薬手帳に、必要項目を正確に記載し、患者に活用法について説明し、理解を得ている。	<input type="checkbox"/> お薬手帳に、必要項目を正確に記載し、患者に活用法について説明している。	<input type="checkbox"/> 指導者のサポートを得ながら、お薬手帳に必要項目を正確に記載し、患者に活用法について説明している。
<input type="checkbox"/> 多様な患者に対する退院指導の内容を、短時間に効率よく、正確かつ簡潔に記載し、一連の指導記録を完結できている。	<input type="checkbox"/> 退院指導の内容を、正確かつ簡潔に記載し、一連の指導記録を完結できている。	<input type="checkbox"/> 退院指導の内容を、正確に記載し、一連の指導記録を完結できている。	<input type="checkbox"/> 指導者のサポートを得ながら、退院指導の内容を記載し、一連の指導記録を完結できている。

## 14. 回診・カンファレンス 『回診，カンファレンスに参加し，病棟の患者を把握し，医療チームで共有する』

A	B	C	D
□ 病棟カンファレンスに定期的に参加して，病棟の多くの入院患者の病状と治療方針などに関する説明・討議の大部分を理解している。	□ 病棟カンファレンスに定期的に参加して，担当患者と主要な入院患者の病状と治療方針などに関する説明・討議の大部分を理解している。	□ 病棟カンファレンスに定期的に参加して，担当患者と主要な入院患者の，病状(病名，重症度)と治療方針などに関する説明・討議の概要を理解している。	□ 病棟カンファレンスに定期的に参加して，指導者のサポートを得ながら，担当患者(事前に決めた入院患者)の病状(病名)と治療方針に関する説明の概要を理解している。
□ 病棟カンファレンスで適切な発言や質問・回答を行い，積極的に医療者の討議に参加する。	□ 病棟カンファレンスで，適切な発言や質問・回答を行い，必要な場合は医療者の討議に参加する。	□ 病棟カンファレンスで，指導者のサポートを得ながら，発言や質問・回答を行なう。	□ 病棟カンファレンスで，他者の発言や質問・回答の内容を理解している。
□ 病棟カンファレンスで，担当患者についてまとめてわかりやすく説明し，医師，看護師などと討議して，理解を得ている。	□ 病棟カンファレンスで，担当患者についてまとめて説明し，医師，看護師などの理解を得ている。	□ 病棟カンファレンスで，指導者のサポートを得ながら，担当患者について(病状，治療目標，治療方針，プランなど)説明している。	□ 病棟カンファレンスで，他者の説明内容から，担当患者について(病状，治療目標，治療方針，プランなど)理解している。
□ 患者回診に定期的，積極的に参加し，回診時に得られる大部分の患者の他覚所見や自覚症状などを把握し，回診時の問題点やその対応を医師，看護師，指導薬剤師と共有している。	□ 患者回診に定期的，積極的に参加し，担当患者と主要な患者の回診時に得られる他覚所見や自覚症状などを把握し，回診時の問題点の概要を医師，看護師，指導薬剤師と共有している。	□ 患者回診に定期的に参加し，主要な患者の回診時に得られる他覚所見や自覚症状などを把握している。	□ 患者回診に定期的に参加し，指導者のサポートを得ながら，担当患者(事前に決めた入院患者)の回診時に得られる主要な他覚所見や自覚症状を理解している。

## 15. 患者経過のまとめ『患者の入院から退院までの経過をまとめ、入院診療の一連の流れを把握する』

A	B	C	D
□ 多様な患者の入院から退院(実習終了時)までの病状の変化、治療・ケアなどの経過を、入院サマリーとして、所定の書式に、簡潔かつわかりやすく記載している。	□ 担当患者の入院から退院(実習終了時)までの病状の変化、治療・ケアなどの経過を、入院サマリーとして、所定の書式に、簡潔かつわかりやすく記載している。	□ 担当患者の入院から退院(実習終了時)までの病状の変化、治療・ケアなどの経過を、入院サマリーとして、所定の書式に、わかりやすく記載している。	□ 担当患者(事前に決めた入院患者)の入院から退院(実習終了時)までの病状(症状、身体所見、検査所見)の変化、治療経過を、入院サマリーとして、所定の書式に記載している。
□ 多様な患者の退院(実習終了)後の治療・ケアの方針について、自らの提案も含めて、入院サマリーに記載している。	□ 担当患者の退院(実習終了)後の治療・ケアの方針について、自らの提案(実現可能、具体的、根拠に基づく、など)も含めて、入院サマリーに記載している。	□ 担当患者の退院(実習終了)後の治療・ケアの方針について、入院サマリーに記載している。	□ 担当患者の退院(実習終了)後の治療・ケアの方針を理解している。
□ 多様な患者に対し、退院(実習終了)後の医療環境(在宅、外来、転院など)と、関与する医療者を把握し、これらの医療者が利用することを想定したサマリーを作成している。	□ 作成したサマリーが、退院(実習終了)後に医療者が利用することを想定した内容となっている。	□ 作成したサマリーが、退院(実習終了)後に指導者が理解できる内容となっている。	□ 作成したサマリーが、退院(実習終了)後に薬学生が利用できる内容となっている。

16. DI 『医薬品に関する質問に対し、医薬品情報を活用し回答を立案し、提示する』

A	B	C	D
<input type="checkbox"/> 他職種あるいは患者からの多様な質問に対し、詳細に聴取し、質問の意図・内容、背景、ニーズを正確に共有できている。	<input type="checkbox"/> 他職種あるいは患者からの質問を詳細に聴取し、質問の意図・内容、背景、ニーズを理解している。	<input type="checkbox"/> 他職種あるいは患者からの質問を十分に聴取し、質問の意図・内容を理解している。	<input type="checkbox"/> 他職種あるいは患者からの質問に対し、指導者のサポートを得て、質問の意図・内容を理解している。
<input type="checkbox"/> 資料の調査範囲が適切かつ十分であり、資料の内容を十分に吟味し、情報の信頼度に則した推奨度などをもとに適切に判断している。	<input type="checkbox"/> 資料の調査範囲が適切かつ十分であり、資料の内容を十分に吟味したうえで判断している。	<input type="checkbox"/> 資料の調査範囲が十分であり、資料の内容に基づいて判断している。	<input type="checkbox"/> 指導者のサポートを得て、資料を調査して判断している。
<input type="checkbox"/> 速やかに調査を終え、報告すべき事項を、根拠を明確に、客観的でわかりやすく、簡潔にまとめている。	<input type="checkbox"/> 求められた期限までに調査を終え、報告すべき事項を、根拠を明確したうえでまとめている。	<input type="checkbox"/> 求められた期限までに調査を終え、報告すべき事項をまとめている。	<input type="checkbox"/> 指導者のサポートを得て、求められた期限までに調査を終え、報告すべき事項をまとめられている。
<input type="checkbox"/> 質問者に対して、結論を適切なタイミングで、客観的かつ正確に、要点をまとめて報告し、内容が質問者のニーズに応えたものであり、理解が得られたかを確認している。	<input type="checkbox"/> 質問者に対して、結論を客観的かつ正確に、要点をまとめて報告しており、内容が質問者のニーズに応えたものであり、理解が得られたかを確認している。	<input type="checkbox"/> 質問者に対して報告すべき内容を正確に報告している。	<input type="checkbox"/> 指導者のサポートを得て、質問者に対して報告すべき内容を正確に報告している。
<input type="checkbox"/> 同様の事例や今後の医療に調査内容を活用できるように、調査・回答した内容の要点と、その後の経過を簡潔に書面にまとめ、適切な部署に届けている。	<input type="checkbox"/> 同様の事例や今後の医療に調査内容を活用できるように、調査・回答した内容の要点と、その後の経過を簡潔に書面にまとめている。	<input type="checkbox"/> 調査・回答した内容の要点を所定の書面にまとめている。	<input type="checkbox"/> 調査・回答した内容を、指導者のサポートを得て、所定の書面にまとめられている。

17. TDM 『TDM プランを提示し、血中濃度の評価から最適な治療計画を提示する』

A	B	C	D
<input type="checkbox"/> 実習病棟において、TDMを実施する可能性のある患者をすべて把握している。	<input type="checkbox"/> 実習病棟において、TDMを実施する可能性のある薬剤、疾患(病状、時期)を把握している。	<input type="checkbox"/> 実習病棟において、TDMを実施する可能性のある薬剤を把握している。	<input type="checkbox"/> 代表的なTDM対象薬剤と、対象となる疾患、病状、時期などを理解している。
<input type="checkbox"/> 多様な患者に対して、学術的な情報に、対象患者の病状と生理機能を合わせて、患者個別の最適な目標血中濃度と最適な投与計画、採血ポイントを設定している。	<input type="checkbox"/> 学術的な情報に、対象患者の病状と生理機能を合わせて、患者個別の最適な目標血中濃度と最適な投与計画、採血ポイントを設定している。	<input type="checkbox"/> 指導者のサポートを得て、患者個別の目標血中濃度と投与計画、採血ポイントを設定できる。	<input type="checkbox"/> 模擬の症例に対して、目標血中濃度と投与計画、採血ポイントの設定をシミュレーションできる。
<input type="checkbox"/> 多様な患者に対して、得られた血中濃度から、必要な薬物動態のパラメータを正確に算出し、血中濃度に影響を及ぼす患者固有の要因をすべて考慮したうえで、測定された血中濃度が患者個別に適正範囲であるか評価できている。	<input type="checkbox"/> 得られた血中濃度から、必要な薬物動態のパラメータを正確に算出し、測定された血中濃度が患者個別に適正範囲であるか評価できている。	<input type="checkbox"/> 指導者のサポートを得ながら、測定された血中濃度から、必要な薬物動態のパラメータを正確に算出し、測定された血中濃度が患者個別に適正範囲であるか評価できる。	<input type="checkbox"/> 模擬の症例に対して、血中濃度から必要な薬物動態のパラメータを正確に算出し、血中濃度の評価がシミュレーションできる。
<input type="checkbox"/> 多様な患者に対して、得られた血中濃度と患者の病状から、有効性と安全性を適切に評価し、治療効果を最も発揮し、安全性を確保できる患者個別の最適な治療計画を立案できている。	<input type="checkbox"/> 得られた血中濃度と患者の病状から、有効性と安全性を適切に評価し、必要に応じて投与計画を修正できている。	<input type="checkbox"/> 指導者のサポートを得ながら、得られた血中濃度と患者の病状から、有効性と安全性を適切に評価し、必要に応じて投与計画を修正できる。	<input type="checkbox"/> 模擬の症例に対して、有効性と安全性評価と、投与計画の修正がシミュレーションできる。

## IV 修了時評価項目

### 1. センター

センター到達度試験にすべて合格していること

### 2. 病棟

病棟到達度試験（口頭試問）（9月）

症例レポート（長編）3編以上の作成（ケースカンファレンスシート）

研修病棟の薬剤管理指導の実施率における規定以上の実績

ルーブリック全項目のAレベルの到達（3か月に1回）

ケースカンファレンス（領域別で実施）での症例プレゼンテーションと質疑応答

### 3. 研究

症例報告（学術的）1編の提出（医薬品安全性情報報告またはプレアポイド提出も可）

学会発表、論文投稿を行った場合は、ベスト臨床研修薬剤師選考時に加点対象とする

### 4. 教育

薬学生およびPGY1の実地指導の実績を1人以上有する。

### 5. プロフェッショナリズム

(1) プロフェッショナリズム評価（3か月に一度）

(2) 成長記録の提出（毎月）

### 6. 研修修了時評価

上記評価に加え、「昭和医科大学が目指す臨床研修薬剤師像」の各項目の到達度を本人、各施設の臨床研修薬剤師運営部会・実行部会メンバーで評価し、修了条件を満たしていることを確認する。なお、数名をベスト臨床研修薬剤師として、修了時に表彰する。